



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2013/08/02(金)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 130

大学バスケットボール春季選手権を観て

6月5日(水)～9日(日) 室蘭市

指導者育成専門委員会 倉島武徳

第63回北海道大学バスケットボール春季選手権大会は室蘭地区協会の協力で無事に終了した。

この大会は各大学が新戦力を加えて、今年度の力を計る上で大切な大会である。男女とも大方の予想通り札幌大学が優勝したが、上位では男子の酪農大学・女子では北海道大が2位に着けたのは快挙であった。両チームともノーシードからの勝ち上がりで、上位常連校を下しての勝利であった。

ここで考えさせられるのは「コーチの責任」である。残念ながら大学チームで専任のコーチを有しているのは上位8チームくらいで、この中でも学生がコーチをせざるを得ないチームがある。コーチがいないから勝てないという訳ではないが、コーチがしっかりしたフィロソフィーを持って、年間カリキュラムを組み立てて、チームを作り上げていくことができているチームが多過ぎると思う。

近年、バスケットボール協会ではコーチのライセンス取得を義務付けている。専任コーチのいない大学は、学生がその資格を獲得しコーチ役を兼務しなければならない。学生コーチの場合はEライセンスから始めなければならないが、ライセンス保有者が卒業して常に新しいライセンス取得者を養成しなければならない宿命がある。この問題をどのように乗り越えるのか、今のところ解決策は見当たらない。

この一方で、専任コーチがいるチームについては、やはり今一つ物足りなさを感じるのには私の偏見だろうか？ 少なくとも男子の上位8チームおよび一部のチームの選手の素質や技術的力量に殆ど差を見ることが出来ない。しかしゲーム内容が納得できない(第3クォーターまで20点程リードしていたにも拘らず逆転負けをしたチーム、シュート数を増やしてゴールするのに汲々としているチーム、相手チームの分析をして弱点を突くとかエースを抑えるとかの纏まったプレーがないチーム等)のである。

女子でも同様のことは言えるが、男子ほど極端ではないのが救いだらう。しかしコーチの責任という意味では、反省しなければならないことはある。例えば札幌大学は選手の素材が他のどのチームより優れていて、しかも層が厚いと言える。そうであればゲーム開始からもっと安定したゲームをしなければならないが、全てのゲームで立ち上がりにもたついていて、前半がタイトになるゲームすらあった。逆にそこに浸けこむチーム戦略があっても良かったのではないだろうか。

総合的に見るとディフェンス軽視が目立つ。点取りゲームとはいえ自チームが確実に確保できる得点を知り、相手をそれ以下に抑えるというゲームの進め方をもっと研究すべきである。そのためにも男女ともにコーチはもう少し自チームのチーム作りカリキュラム、戦力分析、チーム編成、ゲームプランなど策定し、分解して理解させ、基本練習から組み立て、選手がそれをスムーズに受け入れられるようにファンダメンタル・オフェンス・デ

ィフェンスとそれを総合したゲームに対するプランなどチームおよび選手に責任を持てる
コーチングが要求されるだろう。
秋のリーグ戦までの各チームの進歩を願って止まない。

以 上

H B A（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会